光ガ丘中だより～光あふれて～　R８年度　６月号

自主性と主体性を育てる

校　長　　井　川　勝　博

本校のめざす生徒像には

・思いやりの心を持ち、自他ともに大切にできる生徒

・自主的・主体的に動ける生徒

があります。今回は「自主的・主体的に動ける生徒」について、お話いたします。

「自主的に」「主体的に」という言葉は、学校現場ではよく使われます。どちらも「自分で考えて行動する。という一見合いですが、実は少し違いがあります。

一般的に

「自主的」とは「一度教えられたり指示されたりしたことを言われる前に、すすんで行動すること」

「主体的」とは「やるべきことを自ら考えて行動すること」

つまり、やるべきことを決定するのが他者であるのか、自分自身であるのか、という点に違いがあります。例えば、次のように考えることができます。

①「ある程度決められていることを、教えてもらって行動する」

②「ある程度決められていることを、指示される前に自分から行動する」

③「やるべきことを自分で決めて、自分から行動する」

この場合、②が自主的、③が主体的ということになるのでしょう。

現行の学習指導要領では「主体的に学ぶ」という言葉が重要なキーワードとなっています。つまり、いま求められているのは、主体的に動く、ということなのでしょう。

ただ、主体性はすぐに身につくものではありません。主体的に動けるようになるには、まず自主的に行動することを身につけることから始めることが大切であると言われます。また、自分でやるべきことを決定するためには、自ら考える「考え方」や「判断の仕方」を学ぶことも大切であるとも言われます。

③の「主体的な行動」ができるようになるためには、まず②の「自主的な行動」ができるようになることが大切で、「やるべきことを自分で決める」力を育てていくことがもとめられます。

本校では、子どもたちが自主性を身につけ、その先にある主体性を育むことができるよう、日々の教育活動を進めてまいります。